



色彩館に咲く

ミヤマホタルカズラ

Lithodora diffusa

ムラサキ科リトドラ属

原産国：フランス、スペイン及びポルトガル



夕方に光る青花

ミヤマホタルカズラはヨーロッパ西南部から北に広がりフランス西北部にまで分布するほふく性の常緑低木で、高さは15～35cmほどになります。枝葉は細かく硬い白い毛で覆われ、密生した枝はマット状にどんどん広がり、よくロックガーデンなどに使われています。初夏には直径1cmほどの青色が美しい星形の花を沢山つけ、特に夕方や曇天日は光るような青色は大変神秘的です。一般的に耐寒性常緑低木とされていますが、ハーディネスゾーンは7～9と北海道では道南でなんとか越冬できる程度です。日当たりがよい場所を好みますが、暑さには弱く、高温多湿になると蒸れにより枝葉が溶けてしまい本州では夏越しが難しいとされているため、一年草扱いで鉢植えなどで楽しむ方も多いようですね。

属名の「*Lithodora*(リトドラ)」は、ギリシア語の「lithos(石の意)」と「dora(皮の意)」に由来し、果実の裂開の仕方に因んでい

ると思われます。種小名は「広がった」という意味で、マット状に広がる性質を表しています。

品種は青の単色や白と青の複色などいくつかありますが、個人的には単色が一番美しいように感じます。当園の大温室では基本種を植えており、今まに見頃。特別なことは何もしていませんが大変旺盛で、レイズドベッド(立ち上がった花壇)である上に砂状の水はけのよい土であることと、盛夏は遮光され風通しの良い大温室はミヤマホタルカズラが好む環境なのだと思います。時折枝変わりが出て、白と青の複色が混じることがありますが、今のところはそのまみにしています。管理者の欲目かもしれませんが、色彩館のミヤマホタルカズラは青色がとびきり冴えているのではないのでしょうか。夜間1桁代に室温が下がり、日中は換気をして気をつけているものの、瞬間的に20度以上に上がることがあるので、この寒暖差がより花色を冴えさせているのかもしれませんがね。



無料休憩所のショップの営業開始日決定

- ・花蔵 ブッチパルケ 4/29(祝)~
- ・工房こぼしいこい 4/29(祝)~
- ・ルシエルローズショップ 5/2(土)~
- ・カフェローズガーデン 6/6(土)~



*不定期にお休みの場合もあります。ご了承ください。



今月の便り



バラ園

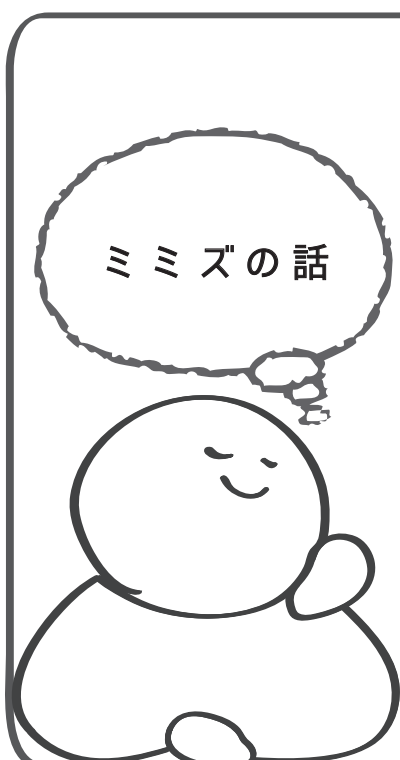
雪融けが早かった今年は4月下旬から本格的に剪定を開始しました。いつもは手が回りきらない花壇の土壌改良も進み、着々と開花に向けての準備が進んでいます。

色彩館

大温室では約20品種の高さ4mを誇る道内最大級のつるバラが次々と開花してきています。まずはGWに見頃を迎える大輪系のクライマー系から始まり、5月中旬過ぎには一季咲きのランブラー系が見頃を迎えると予想しています。外よりも2ヶ月早くまずは色彩館のつるバラをお楽しみください。

花と緑の供給センター

4月中旬からパンジーとビオラの出荷が始まり、夏花も5月末の出荷を待つばかりとなりました。これからは花がら摘みなど手入れしながら株の生長を見守っていきます。今年は色彩館で販売する花苗も種類が増えてますよ。



ミミズの話

によりり。

雪も融けて、畑や庭にスコップをさし込んだ人も多いと思います。

出てきましたでしょうか、ミミズ。

個人的に、ミミズは土壌改良のエース的存在という印象を持っています。土を食べて、その中に含まれる有機物を消化吸収し、フンとして土へと返す。そのサイクルは土壌改良の基盤であると言えるのではないでしょうか。他にもミミズの活用方法があるのかと調べてみたところ、飼料や薬、果ては食材としても利用されていました。進化論で有名なダーウィンが、晩年に研修対象としていた程なので、どうやらミミズは奥が深いようです。

そんな奥が深いミミズ、庭いじりの際に掘り起こしてしまった時は、そっと土の中へ返してあげてくださいね。

Miz

よし
なし
ごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)



わずかにグレーを含むパステル紫の小輪花の房咲きで、花の中心に白のフラッシュがにじんだように入った色です。花色は咲き進むにつれて、グレー色をおびていき、落ち着いた静かな雰囲気になります。他のバラにはあまりない青みがかった紫色の色合いは、ガーデンローズとしてかけがえのない存在です。フルーツ系のようなよい香りを持ち、花もちも良く、日本のノイバラの性質をもつため、強健で尚且つ、耐寒性に非常に優れています。トゲが少なく、枝がしなやかなので、誘引がしやすく、アーチ、フェンス、ポール仕立てなど、様々な仕立て方を楽しむことができます。

ファイルヒエンブラウの交配親、クリムゾンランブラーはノイバラ系のランブラーの交配親として中心的なもので、数多くの品種の血筋の元となっています。当園ではクリムゾンランブラーはもちろん、その血筋を引いている品種は、ファイルヒエンブラウやブラッシュランブラー、ヴィオレットウ、ウィクラリアナ系で

第十四回

ランブラーローズ

ファイルヒエンブラウ

Veilchenblau

作出国：ドイツ

作出者：J. C. Schmiat

作出年：1909年

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き性

交配：

Crimson Rambler × Erinnerung an Brod

は、エクセルサなどがあります。その中でも、ファイルヒエンブラウは20世紀を代表するドイツの作家コルデス氏による傑作品種ともいわれています。花名の由来はドイツ語で「スミレ色、バイオレット色」の意味で、また、別名が多数あり、ブルーランブラー、ブルーロザリー、バイオレットブルーとも呼ばれています。花名ちょっと多いですね。Veilchenblauの読み方も発音の解釈によって微妙に違うので、ファルヘンブラウやファイルヘンブラウなど人それぞれで異なるようです。当園の樹名板のカタカナ表記は、なるべく作出国の言語の発音に合わせているように心がけています。一生懸命調べてはいますが間違いもあるかと思しますので、お気づきの際はお知らせいただければと思います。

当園では、色彩館大温室とバラ園のアーチにファイルヒエンブラウが植栽されております。外の株は少しずつ芽吹いてきたばかりですが、色彩館大温室はそろそろ見頃を迎えています。今年は昨年よりも成績がいいので必見ですよ。



雪融けが早かった今年は、例年よりも早々と庭仕事に取りかかったという方も多いのではないのでしょうか。

バラ園では昨年の冬に各花壇の土を土壌分析に出して、「この花壇は腐植が多い」とか「少ない」なんてことを調べました。その分析を基に、自家生産の落ち葉堆肥や牛ふんともみがらの混合堆肥などをせっせと働き込んでいます。もう既にバラを植えている花壇なので、株と株のすき間に根を切らないようにフォークのような器具で優しく土を起こしながら丁寧に行います。春にじっくりこのような作業ができるのも雪が少なかったお陰。バラ園は広くて重労働ですがバラはきっと応えてくれます。

大温室のつるバラが満開で見頃～！！

1月の中旬から葉むしりと剪定をした大温室のつるバラ約20品種が4月下旬から5月の中旬頃まで見頃を迎えます。高さ4mほどまでになったつるバラは道内最大級。そしてこの時期にバラの開花を見ることができるのは、道内では色彩館の大温室だけ！お見逃しなく！！



5月の市民園芸講座のご案内



- 5月16日(土) 10:00~12:00 ばらゼミ③バラの植床と病害虫対策
無料 定員：40名 講師：工藤 敏博さん ローズグローワー
- 5月23日(土) 13:00~15:00 農業の基本
無料 定員：40名 講師：高橋 啓太さん 農業指導士
- 5月24日(日) 13:00~15:00 知られざるオーキッドの世界
無料 定員：40名 講師：川面 豊樹さん えるむ花園代表
- 6月7日(日) 13:00~15:00 寄せ植えで楽しむコンテナガーデン
有料：2000円 定員：40名 講師：土谷 美紀さん 恵庭サンガーデン